

松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆さまへのメッセージです—

2018年3月20日 発行

松蔭中学校・高等学校
校長 浅井直光

目が見もせず耳が聞きもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神はご自分を愛する者たちに準備された。

(コリントの信徒への手紙 2:9)

学校生活の節目に考えること—小さな選択の積み重ね—

インフルエンザによる欠席者数がゼロとなった今月半ば、番場副校長から終息したとの報告を受け、ひと安心したのも束の間、翌朝の欠席届の電話は、検査結果が陽性との連絡でした。一筋縄ではいかないものです。今冬は校内ではさほど流行せず、学級閉鎖の措置も不要でしたが、先週末に予定していた「特別養護老人ホームきしろ荘の喫茶ボランティア」が、先方の園内で流行とのことで中止になりました。三寒四温を一気に飛び越しての陽気続きで、桜の開花も早そうですが、まだまだ体調管理には気を付けたいものです。高校卒業式後のことですが、高3最後のプログラムとして卒業生10名が、引率教員2名と共に沖縄へ平和学習旅行へと飛び立ちました。卒業旅行としての企画で、美ら海(ちゅらうみ)水族館や首里城など観光名所のほか、ひめゆりの塔やアブチラガマなど戦跡、そして米軍嘉手納基地、普天間基地を見学しました。参加した生徒の一人は「普通の旅行であれば観光だけだけれど、ガマや防空壕を見て沖縄戦を肌で感じる事ができた。広島での平和学習とは違うことを学んだ」と感想を残しています。琉球の歴史と自然、沖縄戦と戦後の米軍基地問題など、様々な切り口から学ぶ旅であったことでしょう。

本日、1年の節目として、終業式ならびに中学卒業式、松蔭賞授与式を挙行了しました。終業式では、1年の修了にあたって節目の意識をしっかりと持つこと、卒業式では、高校進学後の5年間は「大人としての自分を作る期間」として努力することを、それぞれ伝えました。講話の一部を紹介します。

今日は1年間の全てが終わる日で、学校生活の節目(ふしめ)と言えます。節目という言葉は、物事の区切りというような意味ですが、もともと中国の思想から出てきたもので、困難や苦境を乗り越えるためには、しっかりと締め括(くく)りをしなければならず、その締め括りのことを節とか節目と言うのです。植物の竹には節があります。約60個の節が一気に成長するので、1日で数十センチも伸びることがあり、また、その節のおかげで高く成長しても倒れない強さを持っています。

皆さんの学校生活での節目は、学年の変わり目だと思います。中学で3つの節、高校で3つの節を持つことになり、その節ごとに竹のように、大きく強く成長する区切りをつけるわけです。中1生は、松蔭で1個めの節が出来上がりつつありますし、高2生は、あと1年で松蔭最後の節を完成させることとなります。この節目の時に、1年間の自分を振り返り、良い所はさらに伸ばし、課題については謙虚に反省し、改善するよう努めてください。(2017年度3学期終業式 校長講話より)

「選択の連続が人生である」とか「小さな選択の積み重ねが人生をつくる」という見方で人生をとらえ、自らの意志を前面に押し出すことがあります。廊下ですれちがう生徒の表情からは、確実に1年の成長を感じ取ることができそうですが、周囲が気付かないほどの日々のささいな事柄から、自分にとっての一大決心まで、積み重ねてきた一つひとつの選択の結果なのでしょう。彼女たちの「小さな選択」が、どのようなものであったかをできる限り思い起こすことが、一人ひとりの成長の裏付けとなるように思います。私自身はと言えば、学校運営から自分の授業、はたまた家庭のことまで1年を振り返ると、自らの小さな選択には後悔ばかりですが。

シーナ・アイエンガーという社会心理学者は「選択する行為」を研究対象としています。著書『選択の科学』(2010年文藝春秋社)には、インドからの移民でシーク教徒の彼女が、高校生時代に視力を失い、大学進学後にこのテーマを研究するに至った経緯が紹介されています。彼女は「選択することとはすなわち将来と向き合うこと。1時間後、1年後、あるいはもっと先の世界をかい間見て、目にしたものを見て判断をくださること」と述べ、「運命」や「偶然」を排除します。そして「選択」には、力と神秘、並はずれた美しさが備わっている、と結論づけています。その言葉には大きく勇気づけられるところがあります。

ところで、いつも入学式で私は、神様が生徒を松蔭に導いたと話します。冒頭の聖句のように、神様がすべてを準備して人生を導いてくださると理解し、目の前にあることに懸命に努めることは、謙虚に生きることにつながる大切な心がけだからです。アイエンガーの見解に対峙(たいじ)するならば、自ら知るところではない「運命」や「偶然」に加え、「選択」さえも、冒頭の聖句のように、神様が私たちに準備してくださった導きだと受け止めるわけです。生徒たちには、「選択」に大きな価値を見出すにせよ、神様の導きに感謝するにせよ、1年を振り返り、適切な選択を積み重ねたと言えるならば自分を褒(ほ)め、後悔があるならば明日の糧(かて)としてほしいと考えています。

今年度の英検・TOEICの結果

今月初め、廊下ですれちがった中学生に「英検どうだった？」と全校受験の結果を尋ねてみました。残念ながら不合格だったそうですが、彼女によると、地元の公立中に通う友人とは英検の話題は出ないし、松蔭に入って最初は英検が嫌だったけれど、合格して級があがるのが励みになっている、と話してくれました。先日の中2、中3の英語レシテーションコンテストでは、クラス代表の皆さんの英語の上手さに驚きました。松蔭生がまずは英語で自信をつけ、モチベーションを高めて他教科の学習にも取り組み、ひいては人生を意欲的に生きる姿勢を身につけることを願っています。1月の全校受験で英検・TOEICの今年度の取り組みが終了しました。目標の高校2級、中学準2級以上については次のように結果が出ました。()内は昨年度末の数字です。

<中学・高校>準1級5名(4) 2級97名(86) <中学のみ>2級9名(6) 準2級59名(48)

TOEIC受験者は昨年の44名から67名に増え、800点台のスコアを獲得した生徒もいました。昨年は高3生徒数が多かったのですが、今年度の在籍生徒数を考慮すると、「英語の松蔭」の看板は、順調に結果を残しつつあるようです。職員室前の掲示板に、高校2級以上、中学準2級以上の合格者の名前を掲示しています。ステップアップの励みとしていただきたいと考えています。

(裏面へ続く)

校内の3つの広場

前号で紹介しましたレオノラチャペル、そしてエセルホール（食堂）以外にも、校内には名称のある場所がいくつかあります。生徒が自由時間に休憩できる3つの広場は、いずれも生徒によるネーミングです。まとめて紹介します。

エセルホールに向かう途中に「モーヴの広場」があります。H57回の酒井麻衣さんが、藤棚に咲く「薄紫色」（仏語でモーヴ）の藤の花が広がる、落ち着いた空間になるようにと、名付けました。

その東南角には阪神淡路大震災10周年の2005年、祈念樹として楷（かい）の木を植えました。現在5メートルほどの高さになっています。楷の木は学問の木とも称され、日本の植物学の父と言われる牧野富太郎博士が「孔子の木（くしのき）」とも命名した樹木です。東京のJRお茶の水駅そばの湯島聖堂には、十数メートルに成長したこの木々が森のように繁り、大きな木蔭をつくっています。数十年後のモーヴの広場の大きな楷の木蔭に、ゆったりとくつろぐ松蔭生の姿を想像します。

「エスポワールの広場」は、2010年、H66回の樋口真侑子さんが名付けました。図書館に面しているこの中庭で、書物に親しみ知識を深め、将来の「希望」（仏語でエスポワール）を生む場所になってほしいとの思いから生まれました。この広場に面してホームルームクラスがある高1生が休憩する姿をよく見かけます。点在する株立ちの常緑樹の間に、制服姿の松蔭生がたたずむ光景は、すっきりしたデザインとあいまって、フレーム仕立ての西洋画のように感じる場合があります。

体育館の奥（西側）には、1995年の体育館竣工に際して、彫刻家西野康造氏の作品「風になるとき」がモニュメントとして設置されました。以来、暴風をものともせず、金属製の翼は優雅な動きを見せています。H67回生の卒業記念事業としてこの広場を整備し、卒業生に命名してもらおうと募集した結果、三ツ島美咲さんの「翼やすめの広場」が採用されました。このモニュメント「風になるとき」は、鹿児島県の霧島アートの森、山口県宇部市のときわ公園など全国で数カ所に同じ作品が設置されています。昨年秋には、神戸港開港150周年記念芸術祭にも出品され、開催期間中には、神戸港内の海上に設置されていたので、ご覧になった方もおられるのではないのでしょうか。最近では、大阪門真市に開館したパナソニックミュージアムに設置されています。



＜扉には「ESPOIR=希望」の文字 「エスポワールの広場」＞



＜かつての飛び込みプールを埋め立てた「モーヴの広場」＞



＜ゆっくりと動き続けるモニュメント「翼やすめの広場」＞

新学年の取り組みと当初の行事、PTA集会の予定

4月から土曜授業が始まり、学校生活の枠組みが変わります。全校礼拝は、高校が月曜日、中学が水曜日で、教室で朝礼後に講堂へ移動します。平日放課後は、英検対策講座や高2、高3の校内予備校、中学の学年ごとの放課後アドバンス塾が開講します。英検2級以上取得済みの高校生を対象とする、聖ミカエル国際学校の「土曜学校アシスタント」プログラムは、土曜日③校時「課題学習」の時間からの参加となる予定です。各学期末には考査終了後の約1週間を午前中の短縮授業期間とし、答案返却のほか各科目の特別授業を組みます。在校生には関係ありませんが、中学入学前のオリエンテーションキャンプを取りやめて学期中の授業に組み入れます。中学3年生を対象に、英数国3科の「基礎学力判定試験」を2月の私立高校入試日に実施し、中学段階の学力の総まとめを行います。以上のように学校生活の枠組みが変わることについては、スムーズに移行できるよう努めますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

神戸市バスを利用する通学についての連絡です。三宮方面から市バスで「青谷」まで乗車する場合、②系統と⑩系統がありますが、4月より新たに下記のように「⑩系統直行バス」の運行が始まります。ミント神戸横の「三宮駅ターミナル前」が発発で、停車するのは「地下鉄三宮駅前」「布引」のみです。本校生のほか、神戸龍谷中高、神戸高校など近隣校の生徒が対象ですが、一般の方も乗車可能です。通常の⑩系統バスはこれまで通りです。市バスを利用する生徒は、今年度の場合、約150名で、上手に利用できれば利便性は高まるでしょう。終業式および始業式で、生徒に説明する予定です。このバスに関するご質問等は、生徒部長の中川先生までお願いします。

⑩系統直行バス「摩耶ケーブル下」行き

「三宮駅ターミナル前」発 7:27 7:38 8:05。 4月9日（月）より平日（月～金）朝のみ運行。

新学年当初の行事およびPTA集会の日程は下記のとおりです。詳細は各学年団から連絡します。

新学期当初の学校行事

4月 6日（金）中学入学式・高校入学祝福式（高3生徒登校日）

4月 7日（土）中学・高校新入生 入学感謝礼拝

4月 9日（月）始業式（10日より授業開始）

4月16日（月）第1回避難訓練（昼休み）

4月19日（木）生徒健康診断（授業なし）

4月27日（金）文化祭（在校生のみ）

4月28日（土）文化祭（公開）

5月 2日（水）遠足

各学年PTA集会の予定

（学年は新学年です。ご注意ください。時間帯など詳細は、後日各学年より連絡があります）

中1 4月23日（月）放課後（レオノラチャペル予定） 中2 4月16日（月）放課後（講堂）

中3 4月23日（月）放課後（講堂） 高1 4月23日（月）⑥校時（講堂）

高2 4月19日（木）午後（講堂） 高3 4月16日（月）⑥校時（講堂）